

## 1. はじめに

本発表の目的は、『語研論集』のデータを用い、諸言語にみられる連体修飾<sup>1</sup>を類型論的観点から考察することである。結論として、対象とした言語は関係詞優勢型の言語と空所一貫型の言語に分けられること、ならびに連体修飾節のタイプは、その対象言語の無生物主語の許容（／非許容）と相関がみられること、を主張する。

本発表の構成は以下の通りである。2節で連体修飾についての通言語的な先行研究をまとめる。3節で『語研論集』のデータを用いた調査について扱う。調査結果を踏まえ、4節で対象言語の連体修飾の類型論的特徴を論じる。5節は結論である。なお本発表中の例文の表記およびグロス<sup>2</sup>は先行研究で使用されているものに倣う。例文番号・例文中の文字飾りは発表者によるものである。連体修飾節は[]、関係詞は下線、被修飾名詞は**太字**で示している。

## 2. 先行研究

連体修飾表現の類型論的研究として、Comrie & Kuteva (2013) [WALS: 122A] がある。Comrie & Kuteva (2013) は通言語的に関係節のタイプを次の4つに分類した: ①非縮約型, ②代名詞残留型, ③関係代名詞残留型, ④空所型。本節では本発表にかかわる③関係代名詞残留型と④空所型について扱う。

### ③ 関係代名詞残留型 (relative-pronoun type)

関係代名詞残留型は、関係節内に主要部名詞に相当する関係代名詞が残留するタイプである (1)。

#### (1) ドイツ語

*Der **Mann**, [der mich begrüßt hat], war ein Deutscher.*  
 man.NOM REL.NOM me greet.PTCP has be.3SG.PST one German

“The man who greeted me was a German.”

### ④ 空所型 (gap strategy)

空所型は、関係節内に主要部名詞に相当する語が何もない (Ø) タイプである。この空所型を用いる言語では、英語でいういわゆる関係節にあたる表現だけでなく、Fact-S 構造<sup>2</sup>を表す際にも多く用いられる。次の(2)は空所型のカラチャイ・バルカル語の例である。

<sup>1</sup> 本発表では、『語研論集』に倣い、先行研究で「関係節 (relative clause)」として扱われているものもまとめて「連体修飾節」として扱う。

<sup>2</sup> Comrie (1998a) などによる用語で、“The fact that he doesn’t know me…”などの構造を指す。

(2) カラチャイ・バルカル語 (Comrie 1998b: 81)

(2-a) [*kitab-ī al-yan oquwču*  
book-ACC buy-PTCP student  
“the student who bought the book”

(2-b) [*oquwču al-yan kitap*  
student buy-PTCP book  
“the book that the student bought”

(2-c) [*president kel-gän hapar*  
president come-PTCP news  
“the news that the president has come”

(2-d) [*et biš-gän iyis*  
meat cook-PTCP smell  
“the smell of meat cooking”

地理的分布について、Comrie & Kuteva (2013) は以下の4つの主張をしている: 1. ヨーロッパにおいては語族を問わず③関係代名詞残留型が支配的である, 2. ただし, 1 は印欧語族全体にみられる特徴ではない, 3. 東アジアと東南アジアにおいては④空所型が最もよくみられる, 4. ①非縮約型はアメリカ大陸に最もよくみられる. 4.1.節と4.2.節でこれらの主張を検討する.

関係節には, 主要部をもたないいわゆる主要部欠如型の関係節 (headless relative clause)<sup>3</sup> も存在する. (3) はナバホ語の例である.

(3) ナバホ語<sup>4</sup> (Andrews 2007: 214)

[*Kintlání-góó deeyáh-igíí*                    *bééhonisin*  
Flagstaff-to            3SG.go-REL.NPST            3SG(OBJ).IMPRF.1SG(SUBJ).know  
“I know the person who is going to Flagstaff”

他方, 寺村 (1993) は連体修飾表現には「内の関係」と「外の関係」の2種類があると指摘している. 被修飾名詞が修飾節において項や付加詞の役割を果たしているものを「内の関係」, 項や付加詞の役割を果たしていないものを「外の関係」という (上記の Fact-S 構造はこれにあたる). このうち, 「外の関係」の連体修飾節において主要部になり得る名詞は限定的であり, 発話・思考・コト・知覚・半叙述・相対性を表す名詞に限られる. 本発表は, 「内の関係」の連体修飾節を中心に扱う.

### 3. 語研論集データにもとづく調査

『語研論集』23号およびその後の補遺では, 下記のような諸言語の連体修飾複文が調査されている. そこでは, ①内の関係 (主語) 「[その本を持って来た]人」, ②内の関係 (目的語) 「[私が昨日買ってきた]本」, ③内の関係 (場所) 「[私たちが仕事をしている]部屋」などが扱われている. 本調査では, 38言語におけるこれらの例文を対象とし各言語の連体修飾節を分類した (表1). 「関係詞優勢」は連体修飾節に関係詞を広く用いるタイプを指し, 「空所一貫」は連体修飾節に空所型を一貫して用いるタイプを指す.

<sup>3</sup> Andrews (2007) では “free relatives” という術語を用いている.

<sup>4</sup> Andrews (2007) はナバホ語のこのような例を関係節の一種としているが, 名詞化と分析しているもの (Bogal-Allbritten & Moulton 2017) もある.

表 1: 各言語がとる連体修飾節のタイプ

	言語	言語数	割合
関係詞優勢	イタリア語, スペイン語, フランス語, ポルトガル語, 英語, ドイツ語, チェコ語, ブルガリア語, ポーランド語, ロシア語, ペルシア語, ウルドゥー語, ヒンディー語 (以上インド・ヨーロッパ語族), ヴェトナム語, クメール語 (以上オーストロアジア語族), インドネシア語, マレーシア語 (以上オーストロネシア語族), タイ語, ラオ語 (以上クラ・ダイ語族), ジョージア語, アラビア語	21	55%
空所一貫	ウイグル語, ウズベク語, キルギス語, サハ語, タタール語, トゥバ語, トルクメン語, トルコ語, モンゴル語チャハル方言, モンゴル語ハルハ方言 (以上アルタイ諸言語), 朝鮮語, 日本語, 日本語大阪方言, チナンテク語オスマシン方言, ベンガル語, ビルマ語, タガログ語	17	45%

#### 4. 分析・考察

4.1.節で関係詞優勢型の言語, 4.2.節で空所一貫の言語, 4.3.節で他動詞文における無生物主語の許容との関連, 4.4.節で各タイプの類型論的な特徴を扱う。

##### 4.1. 関係詞優勢型の言語

関係詞優勢型の言語にはベンガル語を除くインド・ヨーロッパ語族の言語 (イタリア語, スペイン語, フランス語, ポルトガル語, 英語, ドイツ語, チェコ語, ブルガリア語, ポーランド語, ロシア語, ペルシア語, ウルドゥー語, ヒンディー語) のほか, タガログ語を除くオーストロネシア語族の言語 (インドネシア語, マレーシア語), オーストロアジア語族の言語 (ヴェトナム語, クメール語), クラ・ダイ語族の言語 (タイ語, ラオ語), ジョージア語がある。このタイプは地理的に広範にみられるが, 特にヨーロッパの言語に共通してみられる。これら系統と地域に関する傾向は先述した Comrie & Kuteva (2013) の指摘と同様の特徴を示すが, 東南アジア大陸部および島嶼部の孤立型言語も多く含まれている点は異なっている。関係詞優勢型の言語は主に外の関係の連体修飾節を示す際に内の関係の連体修飾節とは異なる文法的手法を用いる。次の (4) はスペイン語の例, (5) はラオ語の例である。スペイン語では (4-b) のように, 外の関係の連体修飾節は前置詞句 (波線部) によって表されている。

(4) スペイン語 (喜多田・シフエンテス 2018: 99–101)

(4-a) ¿Quién fu-e el [que traj-o es-e libro]?

who.INT be-IND.PST.3SG ART.DEF.M.3SG REL bring-IND.PST.3SG that.DEM-M.SG book

「その本を持って来た人は誰 (か)?」 (①内の関係 (主語))

(4-b) Se<sup>5</sup> oy-e un sonido de alguien llam-ando a la

SE hear-IND.PRES.3SG ART.INDF.M.SG sound of somebody call-GRND by ART.DEF.F.SG

puerta.

door

「ドアを叩いている音が聞こえる」 (外の関係)

<sup>5</sup> 非人称文や再帰受身文の標識 *se* (喜多田・シフエンテス 2018: 101). 詳しくは喜多田・シフエンテス (2018) を参照されたい。

(5) ラオ語 (奥野 2019: 404)

*pûm* [*thii khòy sùuu mûuwáannî*] *yuu sǎy?*  
book REL 1 buy yesterday exist where

「私が昨日買ってきた本はどこ (にある)?」 (②内の関係 (目的語))

一方、このタイプの言語にはヒンディー語のように同じ文を空所型で表すこともできる言語が含まれている。(6-a) は関係代名詞残留型、(6-b) は空所型の例である。

(6) ヒンディー語 (早田 2021: 350–351)

(6-a) *wah kaun h-ai* [*jo kitāb lā-Ø-yā h-ai*?]  
3SG.NOM 誰.NOM ~だ-PRS.3SG REL.NOM 本.F.SG.NOM 持ってくる-PRF-M.SG ~だ.PRS-3SG

「その本を持って来た人は誰 (か)?」 (①内の関係 (主語))

(6-b) [*wah kitāb lā-n-e wāl-ā*] *kaun h-ai?*  
その.SG.NOM 本.F.SG.NOM 持ってくる-INF-M.OBL ADJZ-M.SG.NOM 誰.NOM ~だ.PRS-3SG

「その本を持って来た人は誰 (か)?」 (①内の関係 (主語))

#### 4.2. 空所一貫型の言語

アルタイ諸言語 (ウイグル語, ウズベク語, エウエン語, キルギス語, サハ語, ソロン語, タタール語, トゥバ語, トルクメン語, トルコ語, モンゴル語チャハル方言, モンゴル語ハルハ方言) や朝鮮語, 日本語, 日本語大阪方言, チナンテク語オスマシン方言, ベンガル語, ビルマ語, タガログ語は一貫して空所型による連体修飾節を用いる。ベンガル語はインド・ヨーロッパ語族にあって唯一空所一貫型の連体修飾節を用いる。地理的には、このタイプの言語はアジアから中東にかけて分布している。空所一貫型の特徴として、内の関係と外の関係いずれの連体修飾節も空所型によって示すことができる点が挙げられる。次の (7) はベンガル語の例, (8) は朝鮮語の例である。

(7) ベンガル語 (藤原 2021: 434)

(7-a) [*bôî-ṭa niye asa*] *manuṣ'-ṭa ke?*  
book-DEF take.PRF.PTCP come.VN person-DEF who

「その本を持って来た人は誰?」 (①内の関係 (主語))

(7-b) [*d̪or'jaa-y̐' ṭoka mara-r'*] *ś̌bdô ś̌una ya̐'.*  
door-LOC tap hit.VN-GEN sound hear.VN go.3.PRS

「ドアでノックする音が聞こえる」 (外の関係)

(8) 朝鮮語 (黒島 2018: 223)

(8-a) [*ku chayk=ul kacyeo-n*] *salam=i nwukwu=ya?*  
その 本=ACC 持ってくる-ADN.PST 人=NOM 誰=COP:INTRR

「その本を持って来た人は誰 (か)?」 (①内の関係 (主語))

(8-b) [*mwun=ul twutuli-nun*] *solli=ka tulli-nta.*  
ドア=ACC 叩く-ADN.NPST 声=NOM 聞こえる-DECL.NPST

「ドアを叩いている音が聞こえる」 (外の関係)

### 4.3. 他動詞文における無生物主語の許容との関連

4.2.節では関係詞優勢と空所一貫の言語の2つのタイプへの分類を行った。次にこの2つのタイプと内的に関連する何らかの別の特徴が存在するかどうかを問題とする。本発表では他動詞文における無生物主語の許容（／非許容）という点に注目することにした。表2は連体修飾節のタイプによって分類した諸言語を、さらに無生物主語の許容の観点から再度分類したものである。なお、無生物主語の許容については『語研論集』18号およびその補遺に含まれる調査例文17「その飲み物にはアルコールが入っている」を対象とし、各言語が当該表現をどのように表すかによって無生物主語の許容を○・×で示した。なお、本発表では斜格主語は想定せず、扱っていない。

表2: 各言語がとる連体修飾節のタイプと無生物主語の許容

		言語		言語数	割合
無生物主語の許容	○	関係詞優勢 (A類)	イタリア語, スペイン語, フランス語, ポルトガル語, 英語, ドイツ語, チェコ語, ブルガリア語, ポーランド語, ロシア語, インドネシア語, マレーシア語, タイ語, ラオ語, ジョージア語, クメール語	16	42%
	×	関係詞優勢 (B類)	アラビア語, ウルドゥー語, ヒンディー語, ペルシア語, ヴェトナム語	5	13%
		空所一貫 (C類)	ウイグル語, ウズベク語, キルギス語, サハ語, タタール語, トゥバ語, トルクメン語, トルコ語, モンゴル語チャハル方言, モンゴル語ハルハ方言, 朝鮮語, 日本語, 日本語大阪方言, チナンテク語オスマシン方言, ベンガル語, ビルマ語, タガログ語	17	45%

表2にみるように、無生物主語の許容は連体修飾節のタイプとの相関があることがわかる。すなわち、無生物主語の許容が「○」の言語<sup>6</sup>は関係詞によって連体修飾節を形成するのに対し、無生物主語の許容が「×」の言語は一貫して空所型による連体修飾節を形成する。連体修飾表現のタイプと無生物主語に着目すると、現時点で対象諸言語は次の3つに分類された: 無生物主語の許容が「○」で関係詞優勢型の言語 (A類), 無生物主語の許容が「×」で関係詞優勢型の言語 (B類), 無生物主語の許容が「×」で空所一貫型の言語 (C類)。本調査では無生物主語の許容が「○」で空所型を用いる言語はみられなかった。無生物主語の許容は、上記の視点の問題と SVO 語順の言語における他動詞優位の傾向 (風間 2022: 520) と内的な関連があると考えるが、この点についてはさらなる検討を必要とする。

### 4.4. 各タイプの類型論的な特徴

類型論的な特徴で考えると、A類の言語はどれも SVO 語順、もしくは比較的語順の自由な言語である。一方 C類の言語はタガログ語 (VSO)、チナンテク語 (VSO) を除くそのほとんどが SOV 語順の言語である<sup>7</sup>。修飾-被修飾の語順についても、A類の言語の大部分が「被修飾語-修飾語」の語順であるのに対し C類では「修飾語-被修飾語」の語順をとる。中間的な B類は言語によって「被修

<sup>6</sup> 次の (9) はポルトガル語の例である。

(9) *Essa bebida tem álcool.*  
DEM.F.SG drink have.PRS.3SG alcohol  
「その飲み物にはアルコールが入っている」

(水沼 2019: 104)

<sup>7</sup> 各言語の基本語順は『語研論集』の元データに記載のあるものはそれを参照し、他の言語については Dryer (2013a) [WALS: 83A] と Dryer (2013b) [WALS: 81A] を参照した。

飾語一修飾語」をとる言語 (アラビア語, ペルシア語) とどちらもとる言語 (ヒンディー語, ウルドゥー語) のいずれもみられる。なお空所一貫の言語と主要部終端型 (head-final: AN, SOV) の言語には相関する傾向があることが松本 (2014: 574) で指摘されている。

## 5. おわりに

本発表では, 連体修飾節について, 関係詞優勢型の言語と空所一貫型の言語にみられる類型論的な特徴を示した。さらに, 無生物主語の許容は連体修飾節のタイプとの相関があることがわかった。

今後の課題として, 対象とする言語の種類を増やし, さらに外の関係の連体修飾節についても扱う必要があると考えている。まず, 前者について, 今回対象とした言語には語族的な偏りがみられる。特に, ドラヴィダ語族の言語やアフリカ, 新大陸, オーストラリア先住民, パプア諸語などのデータが十分ではない。今後はそれらの言語のデータを含めた調査を行う必要がある。次に, 後者について, 今回は対象としなかった外の関係の連体修飾節を含めて調査を行うことでより包括的な分類ができると考えている。

## グロス略号一覧 (Leipzig Glossing Rules にないもののみ)

: 形態素境界非表示 / ADN adnominal / IMPRF imperfect / INT(RR) interrogative / OBJ objective / REL relative pronoun / SUBJ subjunctive / VN verbal noun

## 参考文献

Andrews, Avery D. (2007) Relative clauses. In: Shopen, Timothy (ed.) *Language Typology and Syntactic Description*. Volume II: Complex Constructions. 206–236. Cambridge: Cambridge University Press. / Bogal-Allbritten, Elizabeth and Keir Moulton (2017) Navajo in the typology of internally-headed relatives. In: Burgdorf, Dan, Jacob Collard, Sireemas Maspong and Brynhildur Stefánsdóttir (eds.) *Proceedings of SALT 27*. 700–720. / Comrie, Bernard (1998a) Attributive clauses in Asian languages: towards an areal typology. In: Boeder, Winfried, Christoph Schroeder, Karl Heinz Wagner, and Wolfgang Wildgen (eds.) *Sprach in Raum und Zeit, In Memoriam Johannes Bechert*. Band 2: 19–37. Tübingen: Gunter Narr. / Comrie, Bernard (1998b) Rethinking the typology of relative clauses. *Language Design* 1. 59–86. / Comrie, Bernard and Tania Kuteva (2013) Relativization on Subjects. In: Dryer, Matthew S. and Martin Haspelmath (eds.) *WALS Online*. (v2020.3). [2023-06-26]. / Dryer, Matthew S. (2013a) Order of Object and Verb. In: Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.) *WALS Online*. (v2020.3). [2023-10-13]. / Dryer, Matthew S. (2013b) Order of Subject, Object and Verb. In: Dryer, Matthew S. & Haspelmath, Martin (eds.) *WALS Online*. (v2020.3). [2023-10-13]. / 風間伸次郎 (2022) 『日本語の類型』東京: 三省堂. / 喜多田敏嵩, カタリネ・シフエンテス (2018) 「スペイン語における否定, 形容詞と連体修飾複文」『語学研究所論集』23: 89–107. / 黒島規史 (2018) 「朝鮮語の否定, 形容詞と連体修飾複文」『語学研究所論集』23: 219–227. / 藤原敬介 (2021) 「ベンガル語: 特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定, 形容詞と連体修飾複文」『語学研究所論集』26: 359–438. / 松本善子 (2014) 「日本語の名詞修飾節構文」益岡隆志, 大島資生, 橋本修, 堀江薫, 前田直子, 丸山岳彦 (共編) 『日本語複文構文の研究』559–590. 東京: ひつじ書房. / 水沼修 (2019) 「ポルトガル語の所有・存在表現」『語学研究所論集』24: 101–110. / 奥野初音 (2019) 「ラオ語における否定, 形容詞と連体修飾複文」『語学研究所論集』24: 401–406. / 寺村秀夫 (1993) 『寺村秀夫論文集 II 一言語学・日本語教育学編一』東京: くろしお出版.